

2018 年度 センター試験 世界史 B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：36 問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>例年通り、テーマ史的なリード文を用いながら広い範囲の小問を集めた形式となっており、大問 4 題・総解答数 36 問という分量も昨年と同じ。戦後現代史を含む問題も、例年並みの 5 問であった。</p> <p>難易度については、些末な語句やポイントが必要な難しい問題は特に出題されておらず、ほぼ例年並みと見てよいだろう。</p> <p>出題形式そのものには変化がないが、各形式の出題数には若干の変動があった。空欄補充型の語句問題が昨年の 4 問から 2 問に減少した。また、年表形式の問題が昨年の 2 問から 1 問に減少し、地図問題も昨年の 4 問から 1 問に減少した。一方で、短文を用いる正誤判定問題はやや増加した。</p> <p>なお、グラフを題材とする問題が一昨年・昨年に続いて 1 問出されているが、これは現行の課程で強調されている、日本史を意識した問題であった。</p>			

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界史上の帝国や王朝の支配	25 点	古代・中世を中心に、幅広い地域を扱った大問。文化史の問題も 2 問含んでおり、総合的な学力が要求されている。文化史の学習は後回しにすることなく、日頃から進めておきたい。なお、他の大問も同様であるが、掲載された写真や絵については、設問を解く上で直接の関係はない。
第 2 問	宗教と宗教集団	25 点	古代から現代まで、幅広い範囲と地域を扱った大問。難易度は高くないが、地図問題も含まれている。地図問題には苦手意識を持つ受験生が多いが、センターではそのような苦手分野を作らないことが大事である。
第 3 問	世界史上の都市とその建造物	25 点	19 世紀末～20 世紀前半の中国とアメリカ・イギリス・日本の貿易額のグラフを用いる大問。日本史を意識した問題である。グラフを読み解く上で義和団事件や五・四運動などの年号の知識が必要だが、内容としては暗記事項を問うものではなく、貿易総額をその場で読み取らせるもの。こうした傾向は昨年のグラフ問題と同様である。
第 4 問	人の移動と戦争との関わり	25 点	冷戦終結後の現代史や年表形式の小問を含む、人の移動と戦争との関わりについての総合的な学力を問う大問。ルワンダ内戦開始の時期はやや細かいので受験生は対応に苦労したと思われるが、他は特に難解な問題ではない。